

「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部3年 (氏名) 松本実優

① 学習成果

このプログラムに参加して、変化したことは3つあります。一つ目は、学ぶ姿勢です。語学の授業で積極的に発言をしている他の生徒たちの様子を見て、改めて自分の受け身な姿勢に気づかされました。積極的に学び参加する姿勢を意識しながら今後の授業や留学に取り組もうと思いました。二つ目は、中国および浙江省の歴史や文化の理解が深まった点です。参加前は漠然とした歴史や文化のイメージしかありませんでしたが、西湖の歴史や浙江省の経済発展の過程、中国茶の種類など詳しく学ぶことができ、現地に行き、実際に体験をしたいという気持ちが高まりました。三つ目は、中国さらに他の国の文化に対する興味が広がった点です。文化体験や中国語の授業で、中国のデジタル化は日本よりはるかに発展しており、日本が中国に学ぶ点は多いと感じました。今回のプログラムには、日本だけでなくベトナムや韓国など様々な国や地域からの参加者がいたこともあり、それらの国々の文化や経済を学ぶことで、国際的な知見を持ちたいと思いました。

② プログラム内容と経験

主に3種類のプログラムがありました。一つ目は、中国語の授業です。レベル別に5つのグループに分けられ、私は上から2番目のクラスで授業を受けました。ベトナムやインドネシア、韓国、タイなど主にアジアからの参加者が15人ほどのクラスでした。1日1時間10分という限られた時間でしたが、仕事や旅行、部屋探しなどの場面において頻繁に使われる重要な単語や質問の仕方を学ぶことができました。教科書で単語や例文を確認した後にそれを参考にしながら会話練習をする時間が設けられていたので、かなり実践的に学ぶことができました。教科書だけでなく、浙江州や杭州市の写真を交えた説明や便利なアプリの紹介もあり、現地に行った時の具体的なイメージができました。ほぼ毎回、3~4分間の動画の提出や、プレゼンテーションの準備などの宿題が出されたので、新しい単語を覚えて話す練習になりました。綺麗なデザインで分かりやすくまとめられているプレゼンテーションや、字幕など細かに編集されている動画など、他の参加者たちの作品のクオリティがとても高かったのが印象に残っています。二つ目は、中国の文化体験です。杭州市の歴史や浙江省の経済、中国茶、中国剪紙に関する紹介がありました。歴史的な文化から現代の経済や人々の生活まで学ぶことができ、幅広く理解を深めることができました。三つ目は、浙江大と京大の学生同士の交流です。京大からの参加者が日本の食文化や大学生活、京都の観光地についてプレゼンテーションを行った後に、お互いに質問をしあって交流を行いました。中国の文化や学生生活について知ることができたとともに、浙大生からの質問によって今まで疑問に感じていなかった日本の文化について改めて見直すきっかけになる有意義な交流会でした。

③ 進路への影響について

このプログラムに参加して、国際的視野を身につける必要性を感じました。私は今年の9月に浙江大学に交換留学に行く予定です。これからも中国語の勉強を継続し、留学に行った際には中国語や講義など勉強に力を入れるのはもちろんのこと、大学の外に出て中国の生活や文化に直接触れる経験や他国から

<事務局使用欄>受付番号：

-

の留学生との交流を通じて、グローバルな視点を持ちたいと思いました。